令和 5（2023）年 6 月 18 日

令和 4（2022）年度事業報告

Ⅰ　事業総括

公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会（以下「JMSCA」という）における令和 4 年度の主な事業について以下大筋を簡潔に紹介する。

(1) 競技系

今年度は確かに Covid19 の余波が残っているものの SC の選手の World Cup(WC)等での活躍は目覚ましかった。10 月に開催した盛岡における WC は IFSC 直接主催であり、金銭面での大きな問題は JMSCA にはなかった。2023 年度 4 月八王子 WC 開催においては、世界的な物価上昇の余波を受けクライミング壁、器材等のコスト上昇で財政的に難航を極めているが、多くの議論の末に開催が決まった。しかし、国際的にも経済情勢は予断を許さない。国内大会やジャパンツァーなどの人気も相変わらず高い。

同じくオリンピック種目になった山岳スキーであるが、選手強化委員長も決まり、昨年に続き、宇奈月にて日本選手権を開催、さらに海外合宿等行い、漸次、態勢が整いつつある。

(2) 登山系

登山においては、山岳遭難事故を減らす対策が喫緊の課題である。身近なリーダーを育成するために、「夏山リーダー制度」を積極的に全国展開し、より多くの夏山リーダー養成に努めている。11 月には UIAA から検定員を招き、UIAA 資格認定研修会を行なった。国立登山研修所と共に安全登山の意識、基本技術の研修を行っている。登山道の道標整備にも着手した。しかし、「登山道は誰のものか」という議論がある。管理責任の明確化は JMSCA のみでは出来ないので地道に行政等と協力して実践している。万一事故に遭っても自分たちを助けるセルフレスキュー技術の研修も行っている。

海外登山奨励金制度において、かっては多くのクライマーがこの奨励金を使用して海外の山に遠征し、成果を上げてきた。近年はかつての精鋭が目指した登山が影を潜めている。今期は海外登山未経験者の応募や、過去の登攀の繰り返しが目立った。時代、年齢など問題点はあるが、門戸を広げるなど時代に即した形も考慮しなくてはいけない。

「美しい山、日本の未来へ」の山岳自然保護や登山文化の継承は、子供たちを山に親しみさせ、登山の楽しみ、喜びを伝える。全日本登山大会（高知県大会）が開催中止となった。コロナ禍だけではなく、全国的にも登山普及の新しい形を模索しなくてはいけない。世界的な気候変動の影響は山岳の世界にも表れている。

(3) 総務、独立系

表彰については 2 年ぶりの日本山岳グランプリに山野井泰史氏、山岳奨励賞に野村良太氏を表彰した。　SDGs 推進委員会が発足して 2 年になる。持続可能な開発目標と訳されているが、今後 JMSCA として継続的に実践していかなくてはいけない。

AD/倫理研修は日本全国対面はなかなか難しいが、受講生は明らかに増加の傾向にある。

昨年来打ち合わせを継続してきた新 HP が日の目を見た。しかし適切な運用が無ければ

すぐに陳腐化するものと思われる。日々の情報発信が必要である。

JMSCA が実施する各事業の推進にあたっては、各専門委員会を中心に企画・立案し、必要に応じてプロジェクトチーム等の設置や調査を実施した。課題解決に向けた具体的な目標の設定や実施方法等について言うならば、JMSCA 加盟団体振興推進 PT がその具体例である。時間がかかっても成功させなくてはいけない。

(4) 加盟団体のフォロー

国際的な活動は積極的に行いつつも、国内に目を転じれば加盟団体の各都道府県に全てではないが、やはり活動に支障をきたしている岳連が多くあることが、JMSCA 加盟団体振興推進 PT による調査によって、あらためて具体的に浮き彫りになった。対策には多くの困難が予想されるが JMSCA の将来がかかっていると言っても過言ではなく、鋭意対応中である。国体ブロック大会には 30 万円補助は継続しつつ、各県大会においても 10 万円ずつの補助がきまった。

Ⅱ　組織運営及び財政の確立

(1) 組織

新役員に限らず、公益法人の役員としての心構えについて、理事・委員長の研修を行った。コミュニケーションが図れてよかったという評価があった一方定期的に行うべきとの意見もあつた。是非浸透させていきたい。また、毎月の理事会を効率よく運用できるように正確なタイムマネージメントを心がけていきたい。

(2) ガバナンスコード

今年度は 4 年に 1 度のガバナンスコード適合性審査の年であった。今までのコードを提出し、修正を何点か指摘された。さらに 4 年後は実現度合いを審査される。JMSCA 内の対応等将来構想も記述しておく必要がある。

(3) 財政

半期ごとの監事指摘にもあるように、まだ財政面の管理が弱い。今後 JMSCA がさらに発展していくためには経営基盤の根幹である財政管理が必須である。

民間の協賛各社等に対し、本協会が実施するスポーツ推進事業の重要性について、より理解を得るための働きかけを積極的に行い、活動資金の援助を強く要請した。

財源の確保については、クライミングイベントの価値拡大を図り、スポンサー協賛金、サプライヤーとの提携、チケット収入、物販収入等の事業収益で増収に努めている。

また、山岳共済会への加入促進を積極的に図り、業務委託費の確保に努める。さらに賛助会員（団体・個人）の加入促進や選手登録、各種資格認定等を積極的に進めて増収を図る。

支出については、予算委員会を活用して、資金の有効な活用に努める。「CLUB-ITADAK 会員については、ジム連の動きがはっきりせず、サポート企業と話し合い、撤退を決めた。

(4) 組織基盤強化

組織基盤強化ということで補助金を活用し、昨今の DX（デジタルトランスフォーメーション）に対応すべくシステム開発を行っており、次年度も継続することになっている。

また、これも補助金の一環として JMSCA ビジネススクールを開講し、選手・コーチ等が参加し好評を博している。

なお、JMSCA の組織運営に際しては、関係者が一丸となって、コンプライアンス及びガバナンス強化、徹底に努めている。

さらには、加盟団体をはじめとした国際、国内の関連団体との連携はいいまで通り継続して行っている。

(5) 会員状況

会員の状況は以下の通りである。(令和 5 年 4 月 1 日現在)

① 正会員　71 名　(加盟団体 48 名　学識経験者 23 名)

② 賛助会員(団体)　9 社

③ 賛助会員(個人)　90 名　(入会　1 名、退会・逝去　8 名)

賛助会員は 100 名を切ると税額控除団体から外れることになるので、会員の確保に最大限努めている。R5 年 6 月に 1 名入会、プラス 1 名となる。

(6) 収支報告概要

① 貸借対照表(Page 2)

組織基盤強化助成金により、特定資産としてソフトウエア (10 百万円)が、計上された。一方で、赤字により、特定資産の国際大会開催資金（30 百万円）を取り崩したほか、短期借入金も前年より 40 百万円増加した。この結果、正味財産が 85 百万円減少した。

② 正味財産増減計算書(Page 3-4)

令和 4 年度の収入は 476 百万円（対前年 123%)、支出は 572 百万円（対前年 141%）となり、95 百万円の赤字となった。

この主たる内容の一つは、前年の倍以上（89 百万円から 210 百万円）に旅費交通費が増えたことによる。具体的には、事業費で、補助金の使途の多くを占める SC 部の代表選手強化費用の旅費交通費の支出が予算に比較して 27 百万円オーバーになったことと、もう一つは、競技会における大会施設費用の予算と実績の差が大きかったことによる。18 百万円の予算に対して 93 百万円の実績となり、75 百万円の差となっている。これは、予算の設定が低すぎたことと、材料費や輸送料が高騰したことが影響している。

③ 事業部毎実績

・登山部（Page 5）

全体で、11 百万円の赤字となったが、主に、山岳スキー委員会によるもので、JOC からの強化費用補助金や参加者負担金が予定より少なかったこと（△7 百万円）と、競技に関わる費用増（４百万円）に起因する。

・ＳＣ部（Page11, 12）

全体で、78 百万円の赤字となった。

競技委員会では、収入は、18 百万円増えたものの大会施設費用や委託費用、諸経費が増加した結果、40 百万円の赤字となった。

強化委員会では、収入を見込んでいた JOC からの助成金額が減額されたため（△40 百万円)、いくつかの事業を取りやめたが、旅費交通費が航空運賃の燃料費の高騰などにより、想定以上の増加となり、結果的に予算を超え、25 百万円の赤字となった。

④ 法人会計（Page17）

旅費交通費が前年に比べ10百万円増加したが、これは、国際会議やイベント参加のための海外出張や、大会参加のための国内出張が増加したことによる。

(7) 経営上の課題と対策

2019年の世界選手権の赤字の後、予算執行管理に関する運用規律を策定した。しかしながらこの規律に沿った運用がされていなかった。これが基本的な問題である。全ての問題はこれに起因している。コンプライアス違反であり場合によっては懲罰対象になる。

今後の対応として、業務執行改善案を策定し 6 月の理事会において承認されているので、今後の事業に関しては、スポンサーとの絡みがあるが、大会数を減らす、規模を縮小して行うなどの対策をProject teamを作って検討している。

以下、課題と対策になる。

課題：JMSCAの事業全体が収入に見合った規模を超えている

対策：実施する事業を見直す。実施事業を優先順位の高いものに限定し、事業の集中と選択を行う。

課題：経費を節減するチェック機能が脆弱

対策：一定額以上の金額を発注する際等は必ず、１）該当発注が必要であること、２）見積もりを取得し発注金額が適正であること、について事務局または財務委員会の承認を得ることを義務付けるプロセスを導入する。

課題：予算を管理する体制が脆弱

対策：理事会で毎月委員会毎の予算執行状況を共有し、各委員会での執行状況を確認し議論することより、理事会による管理機能を働かせる。また、各委員会において実施する個別の重要事業（注1）の収支結果を理事会で共有し、理事会により適正な予算執行がなされたか否かのチェック機能を働かせる。

（注1）重要事業とは競技大会など、予算規模が大きい（1,000万円以上）個別の事業

課題：事業資金（キャッシュフロー）の確保

対策：キャッシュフローの中期的展望をモニタリングしつつ、複数の資金調達手段を確保しながら、必要に応じて資金調達していく。

以　上

Ⅲ．事業内容

令和４年４月１日～令和５年３月 31 日までの事業について記す。
網掛けは JSC 補助事業。

１． 安全登山普及事業

網掛けは JSC 補助事業。

（１）青少年育成事業（普及委員会）

ア）高体連登山専門部関連

①第 65 回全国高等学校登山大会の開催 令和４（2022）年度香川大会
８月５日(金)開会式、スポーツセンターまんのう８月５日(金)～9 日(火) 登山行動
８月９日(火)閉会式、山域は笠形山、竜王山、大川山
出場選手　425 名

②第 13 回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会の開催
12 月 24 日（土）～25 日（日）埼玉県加須市市民体育館
参加選手　男子 94 人(39 県)、女子 88 人(36 県)

イ）ジュニア登山教室

①「少年少女登山教室」の開催（委託実施）
「未実施の岳連（協会）への積極的な取り組みをお願いしたい。」
22 件の申し込みがあったが、7 件はキャンセルとなった。コロナ禍が原因であった。

②「登山普及情報交換会」開催
2023 年２月 11 日（土）　BumB 東京スポーツ文化館にて 14：30～17：00
現地参加 18 名　オンラインで参加４名

（２）登山に関する文化・学術の振興事業（普及、総務委員会）

ア）新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ）登山に関する情報・資料の収集

ウ）表彰･感謝状・推薦・顕彰

・2022 年度実施各競技大会入賞者（１位～3 位）表彰
・第 59 回全日本登山大会功労者特別表彰（10 回以上の参加者）及び開催地関係者への感謝状（団体）贈呈　（第 59 回全日本登山大会中止によりなくなった。）
・2022 年度永年参与感謝状贈呈　コロナ禍で新春懇談会も延びていたが１月に 14 名の方が表彰された。
・特別功労者表彰　９名(２名は１月以降)の方が新春懇談会で表彰された。
・雪崩災害防止功労者表彰の推薦
町田 幸男　常務理事が表彰された。
・第 10 回日本山岳グランプリの公募と顕彰
日本山岳グランプリは山野井泰史氏が顕彰された。

また、別途に山岳奨励賞として野村良太氏が授与された。

・2022 年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦

日本スポーツ賞　緒方良行氏が受賞した。

・2022 年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦

辻　敏夫氏　山梨県山岳連盟　小畑　和人氏　(一社)大阪府山岳連盟

中村　和義氏　　長野県山岳協会

優秀選手育成賞：伊東　秀和

・2022 年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦

・2023 年度叙勲及び褒章候補者の推薦

エ）2022 年度海外登山隊奨励金の公募と選考(国際事業の項)

チュキマゴ峰(6,258m)南東稜登山隊

シブリン(6,543m)北壁登山隊 に奨励金を授与することとなった。

オ）各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化講演会等の後援

カ）日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る

（３）安全登山の啓発事業(普及、遭対、国際の各委員会)

<u>普及委員会</u>

予定　ア）安全登山指導者研修会（国立登山研修所他共催）の実施

① 東部地区（茨城県）　10 月 21 日(金)～23 日(日)

茨城県大子町　　山域: 袋田、及び奥久慈男体山周辺

参加者 26 名　主催者・講師等 14 名

② 西部地区（島根県）　11 月 18 日(金)～20 日(日)

島根県大田市　　山域：三瓶山周辺　国立三瓶青少年交流の家

参加者 21 名　主催者・講師等 20 名、

イ）安全登山事業（国立登山研修所と共催）

① 高等学校等登山指導者夏山講習会

7 月 25 日（月）～27 日（水）　国立登山研修所・立山室堂周辺

参加者 11 名 講師 7 名

② 上級登山指導者リスクマネジメント研修会

8 月 29 日（月）～30 日(火)　　日本スポーツ振興センター本部事務所

参加者 11 名　講師 3 名　　(東京都港区北青山 2-8-35)

③ 安全登山サテライトセミナー

名古屋会場: 6 月 25 日(土)～26 日(日)　名古屋工業大学

参加者 424 名（会場 75 名、オンライン 349 名）

東京会場: 12 月 17 日(土)～18 日(日)　国立オリンピック記念青少年総合センター

現地とオンラインを同時に行うハイブリッド型式で開催

参加者　573 名(会場 171 名、オンライン 402 名)

④ 登山リーダー夏山研修会

8 月 21 日(日)～26 日(金) 国立登山研修所及び剱岳周辺

参加者 22 名、講師等 10 名　JMSCA の共催からは、はずれた。

⑤ 積雪期登山基礎講習会

2023 年 2 月 10 日（金）～12 日(日)　国立登山研修所及び周辺山域

参加者 25 名、講師等 11 名

⑥ 登山リーダー冬山研修会

2023 年 3 月 12 日（日）～17 日(金)　国立登山研修所及び周辺山域

参加者 14 名、講師等 11 名

ウ）第 59 回全日本登山大会の開催

10 月 29 日(土）～31 日（月）を予定していたが、中止となった。

エ）第 6 回「山の日」全国大会 やまがた 2022

8 月 10 日（水）～8 月 11 日（木）蔵王山付近

山形県内外より約 100 名参加　古賀副会長　参加

遭対委員会

ア）山岳レスキュー講習会

①無雪期（富山県・国立登山研修所）　9 月 9 日　（金）～ 11 日（日）

参加者 16 名。

②積雪期（群馬県・土合山の家）　2023 年 1 月 27 日（金）～ 29 日（日）

参加者　28 名

イ）研修及び研究会

① 遭対常任委員研修会　11 月 26 日(土)～27 日(日）長野県山岳総合センター

17 名参加

内容：無雪期レスキュー講習会の反省と積雪期レスキュー講習会に向けた準備

② 遭難対策研修会兼全国遭対委員長会議　6 月 25 日(土)10:00-15:30

開催場所：東京会員会館 と Web 開催によるハイブリッド開催　参加者 46 名

遭難対策委員研修会兼総会　　2023 年 3 月 25 日(土)～26 日(日)

開催場所　：長野県山岳総合センター　21 名参加

③ 減遭難活動

大阪府、兵庫県、東京都における取り組みの実例について報告された。看板などの設置に際して地権者の確認作業に大きな労力がかかっていることが、共通の課題であった。

ウ）遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

・減遭難キャンペーン「ストップ・ザ 1000」の啓発活動

エ）令和 4 年度全国山岳遭難対策協議会の共催（スポーツ庁他）

7 月 15 日(金)文科省講堂（96 名）と Web（569 名）でのハイブリッド開催となった。

オ）山岳保険加入者の事故調査（報告書作成／ＨＰ掲載）

カ）遭難事故の調査研究

・遭難事故に関する調査研究（委託事業）
・遭難事故の科学的分析
キ）遭難事故科学的研究・他支援
・IMSAR 研究助成支援（継続）
ク）遭対委員会　年間オンライン等
ケ）「国内旅行傷害保険包括契約」実施

国際・アルパインクライミング委員会

ア）国際・アルパインクライミング委員全体会議兼第 59 回海外登山技術研究会
場所　未定
イ）海外登山懇談会
11 月 16 日(水)　19:00 ～　すみだ産業会館
テーマ「SAWA」新たなフィールドに可能性を求めて
ウ）共催事業
ウィンター・クライーマーズ・ミート（国内）の共催
2023 年 2 月

（4）登山指導者育成事業(登山部指導委員会)

ア）指導員研修会
① 全国指導委員長会議
6 月 12 日(日)　13:00～16:00 で、ハイブリット開催
※JMSCA 指導委員会は人数を制限し、(公社) 東京都山岳連盟会議室に集合参加。
また、登山部指導委員長会議の後に、スポーツクライミング代表者会議も併せて実施。
② 氷雪技術研修会・谷川（A級主任検定員・コーチ 2 養成講習会）
開催日時：4 月 29 日（金）～30 日（土）主管：群馬県山岳連盟
研修会 4 名、A 級 2 名、コーチ 2 3 名、講師 4 名、群馬岳連スタッフ 2 名
③ 登攀技術研修会・鹿児島（A級主任検定員・コーチ 2 養成講習会）
開催日時　11 月 5 日（土）～11 月 6 日（日）主管：九州地区山岳連盟
研修会 12 名、A 級 5 名、コーチ 2 1 名、講師 2 名、福岡岳連スタッフ
④ 氷雪技術研修会・大山（A級主任検定員・コーチ 2 養成講習会）
開催日時：令和 5 年 2 月 4 日（土）～5 日（日）主管：鳥取県山岳・SC 連盟
研修会 14 名、A 級 9 名、コーチ 2 4 名、講師 4 名、鳥取スタッフ 3 名
③ 氷雪技術研修会・谷川（A級主任検定員・コーチ 2 養成講習会）
開催日時　令和 5 年 3 月 18 日（土）～19 日（日）
研修 7 名、A 級 4 名、コーチ 2 10 名、講師 6 名、群馬県スタッフ 2 名
④ 公認スポーツ指導員コーチ 1,2、主任検定員の養成
⑤ 夏山リーダー講師養成講習会
（ア） 岩手にて開催で 6 月 26（日）参加者 22 名
（イ） 九州ブロック 12 月 11 日（日）福岡県で開催　参加者 18 名

⑥ 上級夏山リーダー講習会及び検定会

（ア）上級夏山リーダー検定会

4 月 22 日（金）～24 日（日）兵庫道場で初めて実施

（イ）上級夏山リーダー講師会

5 月 28（土）～29 日（日）、6 月 5 日（日）兵庫で開催

（ウ）上級夏山リーダー資格検定会（UIAA 査察）　UIAA 資格委員会主催

11 月 25 日（金）～27 日（日）兵庫県　道場駅周辺の山及び岩場

イ）　委員会等

①指導常任委員会　年間オンライン会議

②夏山リーダー分科会　年間オンライン会議

ウ）国立登山研修所事業への協力

①高等学校登山夏山基礎講習会

②積雪期登山基礎講習会

２．スポーツクライミング事業

（１）競技会運営事業(競技委員会)

公認大会・予選会実施の推進

ア) 競技会・研修会の開催

① IFSC クライミングワールドカップ

10 月 20 日（木）～　10 月 22 日（土）開催地：盛岡

② スポーツクライミング第 10 回リードユース日本選手権

5 月 14 日(土）～5 月 15 日(日）富山県南砺市・桜ヶ池クライミングセンター

選手　244 人（女子 111 人、男子 133 人）

順位は以下の通りである。

ユース B	女子	男子
1 位	小田　菜摘	寺川　陽
2 位	村越　佳歩	山田　航大
3 位	関川　愛音	西尾　洸音

ユース A	女子	男子
1 位	永嶋　美智華	安楽　宙斗
2 位	抜井　美緒	小俣　史温
3 位	武石　初音	猪鼻　碧人

ジュニア	女子	男子
1 位	谷井　菜月	村上　善乙
2 位	高尾　知那	関口　準太
3 位	柿崎　未羽	鈴木　音生

③ スポーツクライミング・第 8 回ボルダリングユース日本選手権鳥取大会

6 月 11 日（土）～12 日（日）鳥取県倉吉体育文化会館
選手　289 人（女子 124 人、男子 165 人）
順位は以下の通りである。

ユース B　女子　　男子
1 位　村越　佳歩　　石原　凛空
2 位　関川　愛音　　山田　航大
3 位　小田　菜摘　　藏敷　慎人

ユース A　女子　　男子
1 位　竹内　亜衣　　安楽　宙斗
2 位　小倉　紗奈　　通谷　律
3 位　抜井　美緒　　小俣　史温

ジュニア　女子　　男子
1 位　野部　七海　　関口　準太
2 位　滝口　萌　　安川　潤
3 位　葛生　真白　　鷹見　真洋

④ 第 2 回ユースフューチャーカップ
11 月 26 日（土）～27 日(月)　茨城県鉾田市生涯学習館スポーツクライミングセンター

リードユース C
女子　　男子
1 位　狩野　凪　　濱田　琉誠
2 位　渡邊　美奈　　奥畑　成
3 位　堀内　優里　　上原　一剣

ボルダーユース C
女子　　男子
1 位　狩野　凪　　濱田　琉誠
2 位　松浦　朱希　　上原　一剣
3 位　堀内　優里　　宮川　幸大

リードユース D
女子　　男子
1 位　西　美柚奈　　石田　奏
2 位　木村　夏渚　　河本　恒太朗
3 位　玉城　陽南美　　伊藤　柊太

ボルダーユース D
女子　　男子
1 位　西　美柚奈　　石田　奏
2 位　玉城　陽南美　　濱田　琉碧
3 位　蒔田　遥　　佐藤　飛羽

⑤ スポーツクライミング・第5回コンバインドジャパンカップ西条（CJC2022），
第1回ボルダー＆リードジャパンオープン
11月12日（土）～13日(日)　愛媛県西条市　石鎚クライミングパーク SAIJO

	女子	男子
1位	森　秋彩	安楽　宙斗
2位	中川　瑠	天笠　颯太
3位	野中　生萌	山口　賢人

⑥ 第13回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会
（「青少年育成事業」の項参照）
12月24日(土)～25日（日）　埼玉県加須市民体育館

	女子	男子
1位	永嶋　美智華	松岡　玲央
2位	竹内　亜衣	上村　悠樹
3位	小倉　紗奈	和田　樹怜

⑦ スポーツクライミング・第18回ボルダリングジャパンカップ
2023年2月4日（土）～5日（日）駒沢オリンピック公園総合運動場屋内競技場

	女子	男子
1位	伊藤　ふたば	楢﨑　明智
2位	野中　生萌	佐野　大輝
3位	関川　愛音	楢﨑　智亜

⑧ スポーツクライミング第36回リードジャパンカップ
2023年2月18日(土)～19日(日)　千葉県印西市松山下公園総合体育館

	女子	男子
1位	森　秋彩	小俣　史温
2位	谷井　菜月	鈴木　音生
3位	野中　生萌	吉田　智音

⑨ スポーツクライミング第5回スピードジャパンカップ、
第3回スピードユース日本選手権
2023年3月11日(土)～12日(日)　千葉県幕張総合高校
スピードジャパンカップ

	女子	男子
1位	林 かりん	安川 潤
2位	河上 史佳	田渕 幹規
3位	金谷 春佳	池田 雄大

スピードユース　ジュニア

	女子	男子
１位	竹内 亜衣	真鍋 竜
２位	林 かりん	藤野 柊斗
３位	鈴木 可菜美	山本 恭也

ユース A,B 省略

（２） 国体スポーツクライミング競技の主管(国体委員会)

五輪競技種目化に沿った国体スポーツクライミング競技の検討

ブロック研修会の開催　　11 月～3 月　全国 9 ブロック

① 第 77 回栃木国体第 1 回基準会議、4 月実施

② 組み合わせ抽選会　場所、JSOS ビル　9 月 10 日　実施

③ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催（委託実施）

④ 栃木国体リハーサル　6 月 4 日(土)～5 日(日) 実施

⑤ 10 月 2 日(日)～4 日㈫第 77 回栃木国体スポーツクライミング競技、
壬生町総合運動場特設会場

⑥ 第 77 回栃木国体以降の開催県への指導

（３）強化事業(強化委員会)

ア）オリンピック強化選手の選考

イ）日本代表選手選考・派遣

① 代表（Ｓ．Ａ．Ｂ）選手の選考

ウ）代表選手の派遣

① IFSC クライミング WC
4 月～9 月　世界各地

② IFSC クライミングワールドカップ（L）　コペル 2022
９月 2 日（金）～3 日（土）実施

③ IFSC クライミングワールドカップ（L,S）エディンバラ　2022
９月９日（金）～１１日（日）実施

④ IFSC クライミングワールドカップ（L,S）ジャカルタ 2022
９月 24 日（土）～26 日（月）実施

⑤ ワールドユニバーシティチャンピオンシップスポーツクライミング
６月 22 日（水）～26 日（日）　実施　　オーストリア・インスブルック

⑥ ザ　ワールドゲームズ 2022
7 月 7 日（木）～ 17 日（日）　実施　　アメリカ・バーミングハム
選手７名（男子３名、女子４名）参加、６個のメダル獲得。

⑦ IFSC ユースワールドチャンピオンシップ

8 月 22 日（月）～31 日（水）　　アメリカ・ダラス
スピード 16 名、ボルダリング・リード 21 名の 2 チーム編成。
金 5 個、銀 7 個、銅 7 個を獲得。国別ランキングでボルダリング・リード 1 位、スピード 3 位を獲得。（詳細は以下の通り）

スピード

ジュニア	男子	藤野　柊斗	1 位
ユース A	女子	竹内　亜衣	3 位
ユース B	男子	上柿　銀大	2 位

ボルダリング・リード			ボルダリング	リード
ジュニア	男子	村上　善乙	2 位	1 位
		関口　準太	3 位	2 位
	女子	久米　乃ノ華	—	1 位
		谷井　菜月	8 位	2 位
ユース A	男子	安楽 宙斗	3 位	1 位
		通谷　律	1 位	4 位
		猪鼻　碧人	—	3 位
	女子	永嶋　美智華	2 位	9 位
ユース B	男子	石原　凛空	5 位	2 位
		寺川　陽	3 位	10 位
	女子	小田　菜摘	2 位	17 位
		村越　佳歩	3 位	3 位

⑧ IFSC-AC クライミングアジア選手権　ソウル 2022
10 月 10 日（月）～16 日（日）

⑨ IFSC アジアユース選手権
2022 年の開催しないことで決定

⑩ アジアンユースゲームス
2022 年の開催しないことで決定

エ）代表選手強化合宿（海外・国内）
オ）ユース選手・指導者講習会の開催
カ）ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者へのスポーツ障害予防啓発(医科学支援)
キ）複合種目(リード、ボルダリング)及びスピード種目への取り組み
ク）選手の心身面の強化に対する取り組み
ケ）競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討

IFSC クライミング　ワールドカップ 2022 国別ランキング

	ボルダリング	リード	スピード
1 位	日本	日本	インドネシア

2位	アメリカ	スロベニア	ポーランド
3位	フランス	アメリカ	中国
8位			日本

（4）審判・ルートセッター事業(技術委員会)

各種競技会・国体スポーツクライミング競技への支援協力　ルートセッター派遣、ブロック別研修会講師派遣

ア）審判・セッター会議の開催（2月）

イ）全国ルートセッター研修会　年2回

・第1回：日程未定

・第2回：日程未定(高校選抜の後)

ウ）ブロック研修会等に合わせての更新研修会　年数回

（5）SCコーチ養成講習会(SC指導委員会)

ア）指導員研修会

① 全国指導委員長会議

6月12日(日)　13:00～16:00 で、ハイブリット開催で実施された。

※JMSCA指導委員会は人数を制限し、(公社) 東京都山岳連盟会議室に集合参加。

また、登山部指導委員長会議の後に、スポーツクライミング代表者会議も併せて実施した。

②公認スポーツクライミングコーチ1養成講習会

期間：5月28日～12月4日

開催地：全国9ブロック（岩手、山梨、新潟、山口、高知、岐阜、富山、宮崎、兵庫）で開催

受講：102名

③スタートコーチ養成講習会　6月26日（日）茨城県鉾田市 受講者4名

③ビレイ研修会

・東京会場 4月2日（土）東久留米 参加者18名

・岩手会場 7月10日（日）岩手運動公園　参加者19名

・栃木会場 9月11日（日）壬生町総合運動場　参加者10名

イ）　委員会等

①スポーツクライミング指導常任委員会　年間オンライン会議

（6）スポーツクライミング医・科学事業(SC医科学委員会)

ア）各種大会における救護スタッフ派遣および救護活動

イ）代表選手メディカルチェック事業

ウ）外傷・障害予防のための啓発事業

①　登録選手向け医科学講習会（選手スタッフ合同ミーティング）2回

②　クライミング医科学講習会

エ）調査、研究事業

① 障害実態調査

② 学会活動（日本臨床スポーツ医学会ほか）

オ）JSPO 公認スポーツドクター、アスレチックトレーナー養成支援（受講希望者の推薦及び代表者協議会への出席）

（７）ドーピング防止事業(アンチドーピング委員会)

ア）ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

① ドーピング検査実施（JADA に委託）

② ドーピング防止講習会開催

③ TUE（治療目的使用に関わる除外措置）申請の支援

④ ADAMS（アンチ・ドーピング管理システム）登録選手への管理支援

（８）倫理研修会事業(ガバナンス委員会、アンチ・ドーピング委員会)

ＡＤ・倫理研修会の開催（随時）

4 月 23 日（土）ZOOM、 6 月 26 日(日）東京、7 月 24 日（日）北海道、

8 月 28 日（日）静岡、 9 月 25 日(日）岡山　10 月 8 日(土）福岡

10 月 30 日(日）宮城、11 月 27 日(日）京都、12 月 4 日（日）東京

12 月 11 日(日）　大阪、1 月 15 日(日）東京、3 月 4 日(土）東京　で実施した

（９）ユニバーシアード関連(全日本大学スポーツクライミング協会)

JOC 主催委員会等出席

(10）国際連盟役員獲得支援事業

スポーツ庁の委託を受けて実施する。

3. 登山関連競技会運営事業

（１）山岳スキー　(山岳スキー委員会)

①フランス Val Claret (Tignes Resort)でスペインチームと合同強化合宿

11 月 5 日（土）～27 日（日）

③　第 16 回日本山岳スキー競技選手権大会　 1 月 27 日（金）～1 月 29 日（日）

黒部・宇奈月温泉大会

スプリント

国際規格	シニア男子	シニア女子
1 位	島　徳太郎	田中　友里恵
2 位	遠藤　健太	滝澤　空良
3 位	平林　安里	上田　絢加

インディビジュアル

国際規格	シニア男子	シニア女子
1 位	島　徳太郎	田中　友里恵
2 位	藤川　健	滝澤　空良
3 位	平林　安里	上田　絢加

④　ISMF(国際山岳スキー連盟)世界選手権派遣

2 月 27 日(月)～3 月 5 日(日)

開催地：スペイン Boi Taull（ボイ・タウル）

2/28（火）スプリント

男子	女子
島徳太郎　27 位（2:54）	滝澤空良　30 位（4:01）

3/1（水）バーチカル

男子	女子
島徳太郎　44 位	田中友里恵　28 位

3/4（土）インディビジュアル

男子	女子
遠藤健太　59 位	滝澤空良　30 位

3/5（日）

ミックスリレー

平林・田中　20 位（33:47）

ワールドランキング

1 位：イタリア	2 位：スイス
3 位：フランス	4 位：スペイン
5 位：中国	17 位：日本

（2）スカイ／トレラン普及・振興

①（一財）日本トレイルランニング協会、日本トレイルランナーズ協会、（一社）日本スカイランニング協会等との連携強化とトレラン事業の調査・協力

4. 登山研究調査事業

（1）国際交流事業(国際・アルパインクライミング委員会)

ア）国際交流

①　訪日する外国登山代表団との交流

イ)海外登山懇談会

11 月 16 日(水)　すみだ産業会館

（2）登山医・科学支援事業(登山部医科学委員会)

ア）UIAA MedCom

① UIAA MedCom Meeting への出席

イ）支援している医科学的諸事業

① JSMM 国際認定山岳医研修会

② NPO 富士山測候所を活用する会

③ JSMM 登山者検診ネットワーク

④ 夏山リーダー制度、インターハイ支援

ウ）調査研究事業

① 医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

(3) UIAA アイスクライミング

選手権派遣支援

5. 自然保護研究調査事業

ア）研修及び研究会

① 令和 4 年度自然保護委員総会（第 44 回山岳自然の集い）

(WEB 利用のハイブリッド会議＆講演会)

全国自然保護委員会委員長および自然保護指導員参加の「集い」を再開

→11/23 にオンラインで実施（28 都府県、56 名出席/北海道 1 名欠席）

② 2022 年度山岳自然環境研究調査

丹沢三の塔での森林の再生活動の実習講習会、

→6/11・10/22 の 2 回、神奈川岳連への委託事業として実施

③ 自然保護指導員フィールド研修会

→2023.2.25 実施　10 名参加

④ 第 12 回自然保護指導員研修会（リアルおよび WEB 利用の hybrid 会議）

都内貸会議室を利用して

→2023.1.28　オリセンにて都岳連主管事業としてリアル会議実施　58 名参加

イ）自然保護の啓発

①自然保護指導員制度の推進

→指導員名簿の管理、新規・更新申請への対応

→全国の指導員研修会のサポート

2023.3.11 長野県山岳協会自然保護委員研修会に講師派遣

②自然保護広報資料の出版

→「指導員の手引き」改定作業中

→「山のトイレゴミ」パンフレット改定作業中

③全国環境月間(6 月)の実施（6 月第 1 日曜日を中心に）

→登山道清掃活動

→沢水の水質調査活動

④環境省・自然公園指導員制度への協力

・自然公園指導員の推薦

→JMSCA 推薦の自然公園指導員の選任、届出（JMSCA 枠 35 名）
→自然公園指導員の年間活動報告書提出の呼びかけ、とりまとめ、提出（4 月末〆）
→自然公園指導員退任者の届出
→JMSCA 自然保護指導員の登録者拡大のために各都道府県山岳協会・連盟のサポート

⑤山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進

・山岳団体自然環境連絡会への参加

→原則隔月開催の会議に出席

・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進

・各種環境保護事業の後援と派遣

→各地で開催されるシンポジウム等の情報を共有して、出席（主としてオンライン会議）
ex2023.3.17 大雪山国立公園協力金フォーラム

3.18「美しく希少な高山植物たち、植物園が取り組む保全の最前線」

3.23 北アルプス山岳利用サミット

⑥日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加･協力

全国山岳自然保護関係活動の集約とＨＰ広報

→日本オリンピック委員会主催「令和 4 年度 スポーツと環境カンファレンス」オンライン会議に出席（12/3）

６．共益事業

（１）広報等

ア）『登山月報』毎月 15 日定期発行　第 637 号（4 月号）～第 648 号（3 月号）

イ）HP のタイムリーな更新　(http://www.jma-sangaku.or.jp)

① HP 新規アップ　　9 月 29 日(木) からリリース

② 英文コーナーの新設

（２）会議等

ア）総　会　6 月 19 日(日)

イ）理事会　原則として毎月第二木曜日

6 月は総会の 15 日以上前の日

ウ）全国理事長会議 2023 年 2 月 12 日（日）

エ）全国参与会　10 月 29 日（土）中止　（第 59 回全日本登山大会が中止となったため）

オ）常務理事会　原則として毎月第二木曜日

カ）委員長会議

キ）常任委員会　毎月 1 回以上開催

ク）事務局会議（随時）

ケ）山岳 4 団体懇談会

コンパス専門部会として懇談会を継続。定款、会計規程の素案までまとまった。

山岳安全対策ミットワーク協議会が発足、12 月 15 日に記者会見を行った。

コ）(一財)全国山の日協議会（随時）

・上部団体　評議員会・理事会・運営委員会への出席

・第5回「山の日」記念全国大会　8月11日(木)山形大会
JMSCAより古賀副会長が参加

サ）国際会議

① 国際山岳連盟（UIAA）総会　10月27日(木)～29日(土)カナダ/カナダ山岳会

③ アジア山岳連盟（UAAA）理事会　開催せず

④ アジア山岳連盟（UAAA）総会　11月26日(日)インド/インド登山財団

⑤ 国際山岳連盟登山部会
国際スポーツクライミング連盟（IFSC）総会2023年3月31日(金)～4月1日(日)
シンガポール

⑥ 国際山岳スキー連盟（ISMF）総会　10月15日(土)　スペイン　オビエド

（３）総務等

ア）令和4年6月19日（日）令和4年度定時総会

イ）令和4年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成・発行

ウ）議事録の整備

エ）山岳保険のＰＲ（山岳雑誌広告、登山月報広告、マスコミ各社他）

オ）組織運営の円滑化のため、事務局体制の強化を行う。

カ）JMSCA会員のデータベース化の整備

キ）事務局内レイアウトの改造　　8月27日　（土）
外部倉庫に備品、書籍の保管と入出庫業務を委託し、空いた場所に
フリー座席を設置（16席）することで、事務所の有効活用を実現した。

ク）ガバナンスコード適合性審査証憑書類確認 9月 1日　（木）
HPへの上記掲載　　10月28日（金）

（４）財政等

ア）財源の確保

①JMSCA”ITADAKI”会員の加入促進

②山岳共済会々員の加入促進

③賛助会員（個人・団体）の加入促進

④ロイヤリティー収入源の具体策を検討

・スポーツクライミングの安全確保を前提とした施設・用具等の安全基準の検討

イ）外部資金の導入

①グローバル・パートナーの獲得

②寄附金の獲得
税額控除を活用して推進する

ウ）理事会において毎月の収支報告

エ）国民スポーツ登山振興基金の管理

オ）山岳共済会（事務センター）の運営管理・山岳共済会会計

カ）監事監査　　期末監査： 5月27日（金)、30日（月）

中間監査：　11 月 4 日（金）

キ）中間決算と補正予算について　　11 月

ク）2023 年度予算案の作成　　2023 年 1 月

以　上